下部消化管内視鏡検査 及び内視鏡的ポリープ切除術の説明および同意書

下部消化管内視鏡検査（いわゆる大腸内視鏡検査）は，肛門より内視鏡を挿入し，直腸・結腸・終末回腸に病気があるかどうかを調べる検査です。

- 検査時に病変が認められた場合には，病変部位を明瞭にするために色素を散布したり，必要に応じて生検（一部組織を採取すること）したりすることがあります。
- 大腸ポリープが見つかった場合，切除する必要がありかつ安全に切除できる大きさ（有茎性のポリープは除く）と判断した場合には，その場でポリープを切除いたします。なお、ポリープを切除した場合，おおよそ1週間飲酒・激しいスポーツ・遠方への旅行ができませんので予め検査を行う日程の調整をお願いいたします。
- 血液を固まりにくくする薬によっては，出血が止まらないことがあるためポリープ切除を行わない場合があります。尚、その場合には一旦薬を中止してからになりますが，中止できるかどうかは個人の病状により異なりますのでその薬を処方されている主治医の先生と相談していただくことがあります。
- 検査は大腸の動きを止める薬（鎮痙剤）や検査を楽に受けていただくために鎮静剤ないしは鎮痛剤を使用します。
- 鎮静剤及び鎮痛剤の注射により検査後静脈炎（腕の血管の周囲が赤く腫れたり、痛みが生じたりすること）となる場合があります。１週間から１０日ほどで自然に治りますが、腫れや痛みが強く我慢ができない場合は診察させてください。
- 検査時間は15分から30分です。病状などにより検査時間にばらつきがあります。
- 検査後は鎮静剤などの効果が残る可能性があるため，十分休んでから帰宅していただきます。なお検査当日は、危険のため自動車や自転車などの運転をおやめください。
- 検査にて生検やポリープ切除を行った場合，病理診断が出るまで約１０日間を要します。
- 従来の検査センターからの病理報告ではなく、医医連携（クリニック間の連携）を構築しております。せんば病理診断科クリニックの仙波秀峰先生が病理診断を担当します。相互が密に連携することで、みなさまに多くのメリットがあると考えています。
- 下部消化管内視鏡検査による偶発症が起こる可能性は以下の通りです。
  1. 腸管洗浄液による偶発症（腸管穿孔や腸閉塞）極めてまれ
  2. 前処置薬による偶発症（全内視鏡検査）0.0037%
  3. 検査時（治療含む）の偶発症（出血や穿孔）0.078%
  4. ポリープ切除による偶発症（出血や穿孔）0.512%

（日本消化器内視鏡学会雑誌,2010,vol 52 ,No.1より抜粋）

下部消化管内視鏡検査及び内視鏡的ポリープ切除術の必要性・偶発症に十分ご理解いただき，同意署名欄に御署名下さい。

年　　月　　日

□上記の説明を受領しました。

□上記に内容について理解し、内視鏡治療の実施を承諾致します。

患者氏名　　代理人氏名（続柄）

池原クリニック